

33 保育現場に生かせる保育実践研修への取り組みについて

秩父学園 地域支援課 地域療育支援室 星美弥子 大門亜希子

【はじめに】昨今、保育所や幼稚園において、発達の気になる子どもが複数在籍している。診断が確定したり加配の対象になったりしている子ども以外にも、集団になじめない、場面の切り替えができない、一斉指示が通らない等、気がかりな子どももいて、クラス運営が難しい状況を抱えている園は多い。また、気になる子どもの行動に気づき支援しても、思うような成果が得られず悩んでいる先生も多い。地域療育支援室では、専門性の向上を図ることを目的として、平成27年度より週1回の幼児療育場面で実践研修を実施してきたので、その取り組みについて報告する。

【対象】所沢市内の保育園・幼稚園に勤務されている方。

【方法】27年度は試行の年として公募はせず、様々なプログラムで実施。28年度以降、以下の内容で実施している。研修生のアンケートを基に検討し、毎年度研修内容に変化をつけて取り組んできた。募集方法：公立園の園長会で研修の説明をし、チラシを配布。研修期間：2日間では短いという意見があり、3～4日間で設定。定員：1コース2名。プログラム：[1日目] 職員の説明を受けながら療育場面を観察。翌週の実習に向けて、所属園で日常的に行っている活動内容を基に活動計画を立てる。[2日目] 集団場面のリーダーとして実習。反省会に参加し、子どもの行動分析や支援シートへの記入を通して振り返り、再構造化する。[3日目] 再び実習。まとめシートを使用して、実習の振り返りを行う。

【結果】どの園も年間のスケジュールがほぼ共通しているので、毎年研修希望の時期が集中する。4年間で21名の研修生を受け入れた。研修では、①観察場面で質問を受けながら丁寧に説明をしたことで、利用児の特徴、支援の目的や意味、必要な配慮について理解してもらうことができた。②日頃所属園で行っている活動を基に計画を立てることで、研修内容を身近な問題として捉え、考えてもらうことができた。③（配慮を要する子に対する関わり方など具体的な話を聞きたいとの意見が出たので、）30年度はまとめシートを所属園での支援に結びつく内容に変更し、園での困り事について必要に応じて相談を受ける時間も設けた。

【考察】アンケートから、「実際に関わったり伝えたりすることで、改めてその難しさを感じることができた。」「今まで気になる子の行動にばかり目が向いてしまっていたが、その子の立場になって振り返ることで見えてくることがあった。」と、研修生は実践研修の必要性を感じている。

研修が実践形式であること、再構造化に意味があることを大切に考えると、3日間連続の実施は外せない。また、協力してくれる子どもの緊張が高まるので、1回に多くの研修生を受け入れることはできない。結果的に、1年間で受けられる人数は限られてしまうのが現状である。

研修生のほとんどが、「学んだことを園に持ち帰って共有したい。」「一人でも多くの人に参加してもらいたい研修である。」という意見を書いてくれている。今後、研修修了者が中心になって園で研修内容を共有する仕組みを作ってもらい、研修実施者がその場にオブザーバーとして参加するシステムが構築できれば、研修に参加した限られた人のためだけの実践研修として終わらず、より現場に生かせるものになるのではないだろうか。